

週刊文春

10月26日号 定価420円



ベストセラー解剖

目次をなくし、ワクワク感だす

『マンガでわかる! 10才までに覚えてほしい言葉1000』高濱正伸「監修」

子供を勉強好きに育てたいと願う親は多い。が、本書の監修を務める人気学習塾の代表・高濱正伸さんによれば、「絶対にみんな、本当は勉強が好き」へ好きにさせるより、「嫌いにさせない」ということこそが大事」なのだという。本書は楽しい学習書なのだ。



永岡書店 1500円+税

「企画を高濱先生にご相談に行った際に、『とにかくおもしろい本にするといいたいですよ』と助言をいただいたんです。大勢の子供を見続けている先生の言葉には説得力があったので、編集

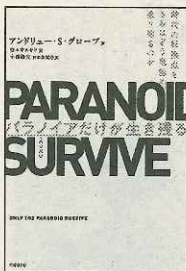
ジヨブズ絶賛

『パラノイアだけが生き残る』アンドリュース・S・グロブ

CPUの巨人として君臨し続けるインテル社は、かつて創業以来の主力製品だったメモリ事業を諦める

時にはいわゆる教材っぽい見た目にしないことをひたすら心がけました。例文はきちんとした文章なのですが、その分、マンガはとことん笑いを重視。「あなどる」だとか「みくだす」だとか、あまりいい言葉じゃないものは動物のキャラでマンガ化することで印象を和らげました。また、目次

決断を迫られたことがあった。会社の稼ぎ頭は、いつ落ち目になるのか。これまでの成功体験に目が眩んでいる経営者は、なかなかその転換点に気づけない。普段から超心配症（パラノイア）気質になって、時代の変化の兆しを読み取らねば



日経BP社 1800円+税

ならないのだ。インテル元会長の遺した古典的名著、20年ぶりの改題復刊。(T)

をつけず、言葉のカテゴリ分けもあえてしないことで、次にどんな言葉が出てくるかわからないワクワク感も大事にしました(担当編集者の島田みさきさん) ヒットを支えたのは口コミ。質の高さとキャッチーさを両立した内容が教育現場で受けた。レベルアップ編、算数脳パズルと続いたシリーズの累計は三十万部を超えている。「変わった需要としては、日本語を勉強中の海外の方が読んでいるというお話をうかがいました。そうした方にも、マンガだと言葉のニュアンスが伝わりやすいのでしようね(島田さん) (二〇一六年六月発売。初版二万七千部。現在二十一刷二十二万四千部)」

新刊推薦文

『金木犀と彼女の時間』

彩坂美月



「宇宙戦艦ヤマト」の真実 豊田有恒 平井和正の紹介で『エイトマン』等のアニメ脚本家となった著者は、やがてくせ者プロデューサー西崎義展の頼みで『ヤマト』に関わることに。数々の秘話に驚かされる。

『祥伝社新書 780円+税』 『中国史談集』 澤田瑞穂

王朝交代期になると登場する王族詐称者が起こした事件のほか、にせ倭寇、残酷な刑罰、横暴な宦官や地方役人の実態、筆禍事件に至るまで、歴史の表舞台からこぼれ落ちた中国裏面史を発掘。「ちくま学芸文庫 1300円+税」 『ゴールデン・ブラッド』 内藤了



文化祭の最中、クラスメイトから告白された菜月。その後「タイムリープ」が始まり、菜月は五回くり返して告白されるはずだった、が……。『リプレイ』ファン要チェックのSF青春ミステリー。(東京創元社 1800円+税) 『あるノルウェーの大工の日記』 オーレ・トシュテンセン オスロに暮らす大工が日常を綴るエッセイ。平易な言葉から浮かび上がる「仕事」の本質はなにげなく、それでいてとても熱い。(エクスナレッジ 1700円+税) 『NYの「食べる」を支える人々』 アイナ・イエロフ 有名無名のシェフ、オーナー、職人からウェイトレスまでNYで食に携わる人々の口述記録集。一口のありがたみが増すこと請け合い。(フィールムアート社 2300円+税)

爆破テロの被害者治療に、血液型を問わず輸血可能な新開発の人工血液が使われた。一方、人工血液を開発した病院ではボランティア女性が急死。二つの出来事に関連はあるのか? 『医療ミステリ長編。』 (幻冬舎文庫 650円+税)